

さぬき市教育委員会事務局 生涯学習課



令和5年7月

叱らない育児の勘違い！

子育ての秘訣3つ



叱らない育児の勘違い

「叱らない育児」を、単に「叱ってはいけない」と解釈するなら…

周りに迷惑がかかっても親は見守るだけで、子どもはしたい放題。

叱られる経験がないまま育つ子は、少しとがめられるだけでもショックを受け、打たれ弱くなる。

子どものわがままに歯止めがきかず、子育てが大変になっていく。

こうした結果が危惧されるかもしれませんが、でも「叱らない育児」は、「叱らない」だけでは決してうまくはいかないのです。



POINT 1

普段「できている時」をこまめに認める



まずは、普段からなるべく「叱らない状態」を整えることに力を注ぎましょう。そのためにできるのが、子どもが「できている時」にこまめに気づき、認めてあげることです。

例えば、お友だちと仲良く遊ぶ子に「おもちゃ順番に使えて楽しいね。お友だちも楽しそうね」と喜んでみせます。兄弟が楽しそうに遊んでいたら、「2人が楽しそうに遊んでくれたから用事がはかどったわ、ありがとう」と嬉しそうに感謝してみましょう。

大げさに褒める必要もありません。子どもの肩や頭にそっと手を触れるなどし、心から喜び様子を示してあげましょう。

親は、子どもの「できていない時」についつい関心が行きがちなもの。それでも、こうして「できている時」に、「ちゃんと見ているよ」とこまめに示し続けることで、「叱らなくていい状態」が強化されていきます。

POINT 2

子どもの気持ちに寄り添いつつ、方針をぶらさない



「叱らない」というのは、子どもの欲求の言いなりになることではありません。「叱ってはいけないから」と、子どもの望むままに何でも「いいいいよ」と受け入れてしまっただけでは、その子が集団生活に必要なルールを学ぶきっかけの機会を生かすことができません。

例えば、周りの人や自分が危険な目に遭うこと、また、公の場で多くの人が不快になるような振る舞いは、「してはいけないこと」として、境界をはっきりと設けましょう。

「それはできないよ」と伝えることで、子どもが泣き叫んだり、かんしゃくを起こすようなら、抱っこして背中をトントンしたりして子どもの気持ちに寄り添います。

優しくとブレないことは両立できると理解しましょう。子どもが、自分の思い通りにならず、悔しかったり悲しかったりする気持ちに向き合い、乗り越えることは、その子のためにとても貴重な経験となります。親は、そうした子どもの気持ちに、寄り添ってあげましょう。

【裏面もご覧ください】

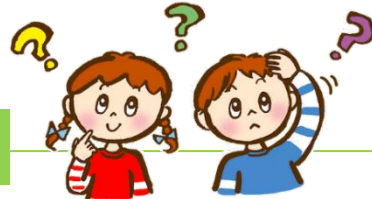
POINT 3

子どもの好ましくない行為を前に、「叱る」か「言いなり」かの二者択一ではなく、次のような「他の対応」もいくつか用意し、状況によって使い分けましょう。

「叱る」以外の対応を工夫する

選択肢を与える

「ゲーム30分で終わる？それとも、今日1時間して明日なしにする？」などの選択肢を示し、子どもに選んでもらいましょう。子どもは自分で決めて選択したことは、より守ろうとするものです。



気持ちを落ち着けるための場を作る

子どもと話し合い、気持ちを落ち着けるための場を利用しましょう。「リフレッシュスポット」や「落ち着きコーナー」などの名前を付け、お気に入りのぬいぐるみや雑貨で飾り、心地よい場にします。

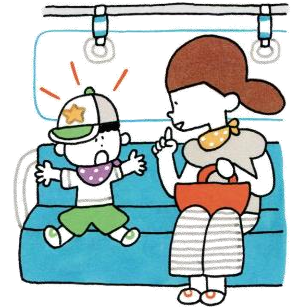
そして親も子どもも煮詰まり、怒りなどの感情がこみあげる場合は、「リフレッシュスポット」で落ち着いてからもう一度話し合おうかと声をかけます。お気に入りの場所で落ち着き、気持ちを切りかえたら、問題を改善するために話し合しましょう。



質問する

例えば、静かにしないといけない場で騒いでしまう場合、「図書館ではどんな声でお話するんだった？」「ママの声より静かな声でお話できるかな？」などと尋ねてみましょう。

頭ごなしに否定されるのではなく、したい放題がゆるされるのではなく、質問されることで、子どもは自分の頭で考え、行動できるようになります。



定期的に家族ミーティング

定期的に家族で集まり、普段気になることについて、話し合しましょう。出かける前に、「レストランではどういうことに気をつけたいかな」と話し合っておくのもいいです。「退屈しないようにお絵描き道具を持っていく」「トイレに行く以外は席を立たないようにする」など、アイデアを出し合ってみましょう。こうして子ども自身に決めさせ、守れなかったらまた話し合うことを繰り返します。

他にも、「ユーモアを用いる」、より年齢の低い子には「他のことに気を向けさせる」など、「叱る」と「言いなり」以外のレパートリーを増やす工夫をしましょう。



普段からできていることを認め、子どもの気持ちに寄り添いつつも方針をぶらさず、叱る以外の対応の工夫をするならば、自ずと「叱らなくていい育児」が実現します。

「ガミガミ叱る」でも、「子どもの言いなり」でもない「叱らなくてもいい育児」を是非、実現したいですね。
(子育てガイド 長岡 真意子)

